

平成27年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（1日目）

日 時：平成27年6月19日（金）

午後6時～午後8時30分

場 所：市役所新館2階 大会議室

出席者：審査委員 島委員、鴻野委員、清藤委員、齊藤（き）委員、西川委員、小友委員、高森委員、木田（直）委員、木田（多）委員、工藤委員、宮川委員、長内委員、小林委員
※2名欠席（檜楨委員長、齋藤(秀)委員）
市民協働政策課 清藤課長、三上補佐、櫻庭主幹、對馬係長、長谷川主査、阿保主事、成田主事、神主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

<プレゼンテーション・審査方法>

- ・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）
ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションへの参加を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、申請書類と事務局の事業説明により審査を実施する。
- ・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

（公開プレゼンテーション有）

1. プレゼンテーション …15分程度
（7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答。）
2. 審査 …20分程度
（事業内容・金額について審議後、採点表に記入。）
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表。

（公開プレゼンテーション無）

申請団体によるプレゼンテーションを省略し、1事業につき15分程度とする。

【審査項目】

審 査 項 目	
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない
	② 社会公的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している

	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる

【審査採点】

区 分	評 価
高く評価できる	10点
「高く評価できる」と「普通」の間の評価	8点
普通	6点
「普通」と「あまり評価できない」の間の評価	4点
あまり評価できない	2点
評価できない	0点

【決定方法】

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上、かつ、各審査項目の平均点が3点以上

《審査内容》

● 1：自得小学校の学習田通用道路舗装整備事業／鬼沢第一町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：今回整備を予定している道路は、冬期間は使われているか。

A：これまでは、除雪をすると砂利が飛んでしまうため、除雪をしておらず、冬期間は通行できなかったが、整備を行えば、冬期間も除雪を行い、利用できる可能性があると考えている。

Q：工事箇所は、ある程度の勾配があるようだが、コンクリートで整備することによって、雨水が流れるようになると思うが、対応策は考えているか。

A：川があるため、川の方向に流すように計画している。

Q：整備は今年1年で完成する予定か。

A：町会の役員などで力を合わせて、今年1年で完成させる予定である。

【主な意見】

- ・小学校の学習田への通用道路であり、生活道路としても使われていることから、子どもたちの安全を考慮できる点や、学習田に砂利が流れ込むのを防ぐ点など、整備をすることによっていくつかの利点があることから、非常に意義のある事業だと思う。

- ・登校日に先生と一緒に学習田に行くときは、大人の目が届いているので問題ないが、休みの日に子どもたちだけで水田の観察等に行くようなことがあれば、砂利道だと転んでけがをする可能性があるので、整備を行っていただきたい。
- ・今後も地域の施設等を整備する機会があると思うので、整備に備えて何年かかけて積み立てなどをすることも考えていただきたい。

【採択結果】

合計点 72.0点 ≥60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.2
合計		72.0

●9：手造り屋台村／小沢地区屋台村実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：昨年の実績では、既存の団体の参加があっただけのようだが、地域コミュニティの力が高まるような新しい動きはないのか。

A：地域のことを考えて既に活動している団体の力を借りながら、自分たちから参加したいと言ってくれるようなグループが出てくるように、事業を定着させていきたい。既に、新たなグループを作って屋台村に参加してくれる人や、事業を手伝ってくれる人を募っており、今年は料理の勉強をしているから屋台を出してみたいという声が出てきている。

Q：地域の交流を図る事業として、これまで行われてきた運動会がなくなったことで昨年屋台村を実施しているが、屋台村は運動会の役割を果たすことができそうか。

A：昨年は雨の中、地域住民がたくさん参加し、参加者からは、運動会の代わりに良いものを考えてくれたという声を聞くことができた。小沢地区の町会の中からも、屋台村に協力するため、役員の体制を整え、みんなで盛り上げていこうという動きが出始めている。

Q：集客のために盛り込んだ、ゲスト出演者に対する経費の割合が大きいですが、今後自主財源で自立して実施する方法は考えているか。

A：だんぶり池という地域の財産を大切にしながら活用していく方法を、今後考えていきたい。

【主な意見】

- ・どの地域でも少子高齢化という課題を抱えている中、小沢地区では、地域の課題を解決するために地域の人たちを巻き込むために動いていこう、という強い思いは感じた。
- ・多くの人に集まってもらうためにゲストを呼ぶ必要性は認めるが、例えばだんぶり池やホテル池といった地域の特色や、地域の人材を活用した、手作り感や地元感を事業の中に取り入れていただきたい。
- ・地域の子どもの数が減少していることから、多世代交流が事業の目的としてあがっているが、計画からはそれぞれの世代が縦につながるような仕掛けが見えづらいので、様々な世代が交流できるような工夫をしていただきたい。

【採択結果】

合計点 60.9 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	4.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.1
合計		60.9

● 10：第2回 日本・台湾友好音楽祭／弘前市民俗芸能保存連合会

【質疑応答（抜粋）】

Q：市でもりんごを通じて台湾と交流をしているが、インバウンドの視点を含めて、台湾との交流について考えていることがあれば教えていただきたい。

A：台湾の人たちには、様々な季節に弘前に来てもらい、四季を感じてもらいたいと思っているので、自分たちが台湾に行くときに弘前のパンフレットなどを持っていき、市をP

Rしている。台湾とは、音楽を通してつながることができたので、弘前と台湾のパイプ役になることができればいいと考えている。

Q：入場料や参加費を無料にしている理由を教えてください。

A：台湾や月琴の良さを子どもたちに知ってもらうために、入場料や参加費を無料としている。二日目のワークショップは日曜日でもあるので、いろいろな施設等に案内を送り、できるだけ多くの子どもたちに来てもらい、様々な台湾の面を見ていただきたい。

Q：来年度以降事業を継続していくために、今後の資金についての考え方や、将来の事業の方向性などで考えていることがあれば教えてください。

A：弘前と台湾で交互に行う事業なので、弘前では再来年また実施することになる。来年台湾で実施することによって、市民にとってより充実した内容になるような新たな企画を考え、予算も検討していきたい。

【主な意見】

- ・世界に目を向けた、国際交流のための事業であり、音楽を通して弘前と台湾が身近になることは良いことだと思う。
- ・弘前の団体が台湾の月琴奏者たちと縁があるからこそ、弘前市民が大都市でもなかなか触れられない音楽に触れる機会が作ることができており、このようなネットワークに大いに期待したい。弘前では、りんごを含め、台湾との交流が増えてきているので、このような事業をもとに、交流のきっかけが増えればいいと思う。
- ・日本と台湾は、学生の交流が盛んであるという面があるので、大学を巻き込むなどして、音楽だけでなく広く文化の面などに拡大波及していくような可能性に期待したい。

【採択結果】

合計点 77.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.9
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.9
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.7
合計		77.2

● 11 : 津軽民謡りんご節世界大会／津軽民謡りんご節世界大会実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : より津軽らしい津軽五大民謡ではなく、比較的歌いやすいりんご節の、「世界大会」を開催することにした理由を教えてください。

A : 今後、津軽民謡を世界に向けて発信していくために、津軽民謡の中でも、誰でも歌える「りんご節」という民謡があるということを知ってもらえるように、「世界大会」と称している。

Q : 事業の中で出前授業を行う予定だが、津軽民謡の普及という視点で何か考えていることがあれば教えてください。

A : 出前授業については、今回は学校の合唱部などに事業について発信していき、子どもたちに民謡を歌えるようになってほしいと思っている。また、りんご節の新作歌詞を募集し、応募作品を掲載したパンフレットを作製したりして、徐々に底辺を広げていきたいと考えている。

【主な意見】

- ・ 伝統文化に携わる人のすそ野を広げるために、小・中学校の合唱部と連携するなど、若い人達が民謡にふれあう場を作ろうとしていることがとても良いと思う。
- ・ 民謡は、若い世代に馴染みが薄いこともあり、誰かがこのような事業を進めていかないと、廃れてしまう文化の一つだと思うので、ぜひ事業を行っていただきたい。
- ・ 講師等謝礼にかかる経費の割合が大きい。市内にいるさまざまな人材を活用することで、登用された人の力が付くことにもつながると思うので、司会や講師等の選定についても工夫していただきたい。
- ・ 現在開催されていない大会の受け皿になっていたり、りんご節だけだと間が持たないな

ど、様々な理由はあると思うが、内容が盛りだくさんであるため、事業のねらいが伝わりづらい。

【採択結果】

合計点 69.4 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.6
合計		69.4

6月19日審査結果（20事業のうち4事業）

採択とする事業 4事業
 不採択とする事業 0事業

平成27年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（2日目）

日 時：平成27年6月20日（土）

午前9時～午後3時50分

場 所：市役所新館2階大会議室

出席者：審査委員 島委員、鴻野委員、清藤委員、齊藤（き）委員、西川委員、小友委員、木田（直）委員、木田（多）委員、工藤委員（事業番号7から17まで出席）、宮川委員（事業番号3から欠席）、長内委員、小林委員
※3名欠席（檜楨委員長、齋藤（秀）委員、高森委員）
市民協働政策課 清藤課長、三上補佐、櫻庭主幹、對馬係長、長谷川主査、阿保主事
成田主事、神主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

6月19日に引き続き審査

《審査内容》

●4：青少年健全育成・地域づくり・地域世代間交流事業

「第2回 津軽の伝統文化と昔の遊びに触れてみよう」／時敏地区青少年育成委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：全市的に事業を展開することを視野に入れているということだが、この活動をほかの地域に広げていくために情報発信をしていただきたいと思うが、他の地域から問い合わせはあったか。

A：去年は、3つの地域から依頼され、子どもたちに独楽やけん玉などで昔の遊びを体験してもらい機会があり、活動が広がってきていると感じている。何年か時敏地区で事業を行ってみて、どのように事業を展開していけばいいかが見えてきたら、各地区の代表育成委員や生涯教育指導員などが参加する会議等で話題提供をするなど、少しでも全市の種になるように展開していきたい。

Q：体験するあそびの種類について、的を絞ってじっくりやることも1つの方法だと思うが、団体ではどのように考えているのか。

A：子どもたちに短期間で様々な昔の遊びを体験してもらうことで、興味を示すものと示さないものを大人が把握し、その上で、全市に展開していきやすいものなどを見極めていきたい。ただし、弘前で行われている伝統文化は、34種目すべてを小学校在学中に、体験してもらいたいという思いがある。

【主な意見】

・今は1つの団体としての活動だが、他の団体やほかの地域の青少年育成委員会との連携

を視野に入れて時敏地区から情報発信をしていき、市内全域に事業を広めていただきたい。

- ・インターネットを使ったゲームが原因で寝不足等から不登校になる子どもがいると聞いたことがあるので、子どものうちから、人と交流ができるような遊びに触れることは、教育的にも良いことだと思う。
- ・自分たちの地域に在住している方や、地域に努めている方が講師になっているところが素晴らしいと思う。

【採択結果】

合計点 85.3 点 ≥ 60.0 点 ⇒ 採択(申請額どおり)

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	9.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.9
合計		85.3

● 2 : 大開町会納涼祭り／大開町会

【質疑応答(抜粋)】

Q : 祭りのポスターはどのようにして作成したのか。

A : 昨年は、ポスターのデザインを町会の子どもたちから募集し、そこで集まったものを町会内に貼った。

Q : 団体会費を30万円としているが、町会で積立等をおこなっているのか。

A : 納涼祭りのための予算を組んでおり、以前は、ほとんどが飲食のための経費として消費していた。毎年同じ内容で実施していると面白くないということで、参加者が減ってきたことから、工夫するための費用という部分で1%システムを使ってみるようになった。来客が多くなるにつれ、売り上げも伸びてきたので、今後はその中から出演者の謝礼なども出していけると思う。

【主な意見】

- ・昨年からの継続で、高齢者の送迎を行い、祭りへの参加を促すことで、世代間交流につながっていくだろうし、災害等があったときに地域で支えることを考えている点も評価したい。
- ・町会内や近隣町会の方との親睦・絆を深めるために、また参加したいと思わせるような工夫をしながら、継続していくことが必要だと思う。
- ・今回は演芸を見るものがメインとなっているが、そのほかに参加できるような内容があれば、今後も費用を抑えながら継続していけると思う。

【採択結果】

合計点 82.9 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.2
合計		82.9

● 7：大沢サマーフェスティバル／大沢サマーフェスティバル実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：出店の収支はどのようになっているのか。

A：町会にある団体ごとに出店をすることになっているが、出店にかかる経費については各団体に一任している。

Q：地域の中で、組織に入っている人だけではなく、個人で特技を持った人の発表の機会を、フェスティバルのイベントの中に設けることは可能か。

A：過去に町会内の花屋の講習会をイベントとして行ったことはある。毎回、イベント出場者の募集はしているが、応募がないため現在は実施していない。審査会での意見を参考に、今後検討して実施したい。

Q：町会の宵宮との違いは何か。

A：町会の宵宮は7月15日に実施している。フェスティバルは8月16日のお盆の時期に行うことで、町会外に出た方も帰省している時期なので、家族みんなで楽しむ機会にしてもらいたいと考えている。

Q：フェスティバル同日に消防訓練を行うということだが、若い世代を巻き込むためになにか考えていることがあれば教えていただきたい。

A：町会の人がたくさん集まるイベントの中で突発的に訓練を行うことで、イベントにいる人みんなが参加しなければいけないような状況にする。実際に災害等が起きた時のことも想定しながら実施できるとともに、組織の現状も把握することが出来ると考えている。訓練を継続していく中で、道具の使用法や炊き出しも含め、実用性のある組織にしていきたいと考えている。

【主な意見】

- ・事業を行う上での課題はたくさんあるようだが、今後継続する上でのスタートとして頑張ってもらいたい。
- ・フェスティバルを継続していただくとともに、自主防災についての講習会なども実施しながら、有事の際に動けるような組織や人材の育成にも努めていただきたい。

【採択結果】

合計点 79.2 点 ≥ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合 計		79.2

● 12：2015岩木町絆フェスティバル事業／岳暘ふるさと創生会

【質疑応答（抜粋）】

Q：イベントの中でグリーンツーリズムの啓発活動をするということだが、具体的にどのような方法で実施するのか。

A：弘前里山グリーンツーリズムという会が作成している、グリーンツーリズムのパンフレットを配布したり、今までの活動の写真をパネルにして掲示したいと考えている。まずは、グリーンツーリズムへの理解を深めてもらうところから始めていきたい。

Q：5町会の連携や、人の交流の場を設けることを目的として始めたイベントであるようだが、継続してきた中で、何か連携や交流が見えるような事例があれば教えていただきたい。

A：1日限りの事業のため、難しいところもあるが、このイベントを実施したことで、人と人とのつながりができ、会員も増えてきている。また、この祭りだけではなく、美化運動なども実施している。

【主な意見】

- ・当地域におけるグリーンツーリズムの啓発活動の必要性は理解するが、本事業内において、啓発活動の効果的な方法が明確に示されておらず、行うことの効果が図りづらいことから、グリーンツーリズムの推進に有効な方法を検討していただきたい。
- ・このイベントを行うことで、良い面はたくさん出てきていると思うが、イベントを実施する目的がどこにあるのかを明確にしていきたい。

【採択結果】

合計点 51.3 点 ≤ 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	5.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	5.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	4.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	4.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	4.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	4.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	4.8
合 計		51.3

● 3 : 町会さなぶりイベント／笹館町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：イベントの内容については、どのような時間設定になっているのか。

A：メインの演劇公演が1時間ほどで終了するため、その後は、みんなでお弁当を食べながら、自由にトランプや将棋をしていただきたいと思いますと考えている。

Q：1人暮らしの高齢者が20軒くらいあるとのことだが、その人たちが参加しやすくなるような配慮はあるか。

A：町会の中に女性部があり、弁当を作れないか方の弁当を準備したり、送迎をするを考えている。

Q：来年度以降はどのように参加者を集めようと考えているのか。

A：1度集まるきっかけがあると、次回以降も継続できると考えている。今回のイベントを見て、次回も参加したいと思っていただけるように工夫をしたいと思っている。

【主な意見】

- ・事業の経費には見えてこない、送迎の部分や手弁当の部分など、自助努力の部分がすごくあり、評価したい。
- ・農閑期にイベントを行うということで、農家の方の生活サイクルの一部になるようなイベントにしていただきたい。

【採択結果】

合計点 79.5 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.4
合計		79.5

● 5 : ふるさと交流ジャズフェスティバル in 弘前／

ふるさと交流ジャズフェスティバル in 弘前実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q : 子どものうちからジャズに親んでもらいたいということで、親子リズム遊びや小中高生のバンド出演などがあるということだが、どのように行うのか。

A : 親子リズム遊びについては、再利用品で楽器を作ってもらおうと考えている。バンド出演については、団体としての受け入れ態勢は整っているが、参加の有無は学校側に一任している。

Q : 子どもの料金を大人より安く設定するなど、人を集めるうえで何か考えていることがあれば教えていただきたい。

A : 子どもの入場料は無料。ジャズに少しでも興味を持っている方が聞きに来れるように設定している。

Q : この事業を行うことで、弘前市民に対して、どのような効果が生まれると考えているのか教えていただきたい。

A : 各地から集まってきたプロと市内のアマチュアが同じコンサートで演奏すること自体が「ふるさと交流」になるし、このコンサートをきっかけに弘前の活性化につなげることができれば、弘前に来る人や弘前に留まりたいという人が増えていくと思う。近年、若い奏者の意欲が高まってきているので、さらに小中学生の中から、ジャズに興味を持ち、触れてみたいと思ってくれる人が出てきてほしいと考えている。

【主な意見】

- ・ジャズに対する強い思いは感じるが、事業を行うことによって市民に還元される効果が明確に示されていないことから、若年層をはじめとする市民が広く参加できるような働きかけを、より積極的に図っていただきたい。
- ・参加予定者数に合った会場を選定するなど、経費を事業規模に合わせて見直していただきたい。

【採択結果】

合計点 33.5 点 < 60.0 点

審査項目⑨予算の具体性、事業の内容・規模に合った予算になっている 2.7 点 < 3.0 点

審査項目⑩貴重な税金を使うことによる効果が認められる 2.4 点 < 3.0 点 ⇒不採択

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	3.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	3.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	3.1
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	3.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	3.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	4.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	3.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	3.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	2.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	2.4
合 計		33.5

● 17:「あのね、知ってる?ここにもフランス」プロジェクト/弘前グローバル・アクション
【質疑応答(抜粋)】

Q: 事業を行う目的としては、フランスの文化を市民に知ってもらうための機会をつくるということでしょうか。

A: 大きな目的としては、まちなかの賑わいの創出であり、その媒体としてフランス文化を活用する。弘前とフランスは、つながりがたくさんあり、リーフレットを通じてフランスと弘前の関わりや、実際に取材してきたフランスの情報などを伝えていきたい。また、商店街の中にある広場でマルシェを行うことで、街中の賑わい創出につなげたいと考えている。

Q: 過去にも事業を行っているということだが、前回と今回の違いがあれば教えていただきたい。

A: 今回はマルシェを実施する際に、市内の手仕事グループの方をと連携し、自作の雑貨などの販売や、ワークショップの実施を考えている。

【主な意見】

- ・賑わいを取り戻したいという目的で、活性化を進める中で、新たな国際交流につながりそうな、うれしい動きだと思う。
- ・広く一般市民を対象にした情報誌を作成するというのであれば良いと思うが、企画内容が明確でない部分もあり、練り直していくともっと面白いものになると思う。
- ・学生の活気で、商店街の活性化につなげていただきたい。

【採択結果】

合計点 61.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択(申請額どおり)

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	5.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.4
合計		61.8

● 14 : 第11回「話してみよう韓国語」青森大会／

「話してみよう韓国語」青森大会実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : この大会に出場する、特定の人スキルアップのための事業にも感じるが、本来の目的を教えてください。

A : 大会のレベルとしては初心者でも出場できるもので、誰でも楽しめる大会となっている。大会の参加者の中には観光ボランティア等の活動を始める者もあり、社会参加を促すいい機会でもあると考えている。

Q : 集客のために何か考えている周知方法があれば教えてください。

A : 参加者を増やすために、今回から事前講習会を実施する。採択になった場合には、大会と講習会の案内を広報ひろさきに掲載して周知したいと考えている。

【主な意見】

- ・お互いの言語でやりとりをすることは、国際交流や文化交流につながると思う。それを、弘前に根付かせるきっかけとなるような大会になれば、実施する意義が非常に大きいと思う。
- ・観光客を受け入れる土壌づくりのために尽力いただきたい。

【採択結果】

合計点 67.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択 (申請額どおり)

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.8
合 計		67.2

6月20日審査結果 (20事業のうち8事業)

採択とする事業 6事業

不採択とする事業 2事業

平成27年度第1回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（3日目）

日 時：平成27年6月21日（日）

午前9時～午後3時30分

場 所：市役所新館2階大会議室

出席者：審査委員 鴻野委員、清藤委員、齊藤（き）委員、西川委員、小友委員、高森委員（事業番号18から出席）、木田（多）委員、工藤委員（事業番号16から欠席）、宮川委員、長内委員、小林委員
※4名欠席（檜楨委員長、島委員、齋藤（秀）委員、木田（直）委員）
市民協働政策課 清藤課長、三上補佐、櫻庭主幹、對馬係長、長谷川主査、阿保主事
成田主事、神主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

6月19日、20日に引き続き審査

《審査内容》

- 8：弘前から乳がん受診率50%達成発進!!&ケア帽子でがん患者をサポートしよう!!

／ほほえみネットワーク

【質疑応答（抜粋）】

Q：ケア帽子を1つ作製するために、どのくらい時間がかかるのか。また、作り方を教えてほしい場合はどうすればいいのか。

A：慣れた人であれば、1時間程度で作ることができる。現在は、ケア帽子を教えられる人があまり多くないが、グループで教えてほしいという方と都合が合えば、伺うこともできる。個人で教えてほしいという方は、毎月第3火曜日にヒロロで講習会を行っているので、直接来ていただきたい。

Q：乳がん検診の啓発活動は、行政の政策とマッチングすることで、より事業効果が高まるように思うが、行政の政策について行政と議論するような機会はあるか。

A：昨年、青森市でピンクリボンの大きなイベントが行われた際に、なぜ弘前では行われないのかと疑問を持ち、とにかく検診に行ってほしいという思いで、従来の啓発活動から一歩踏み出し、より集客力のあるカルチャロードに参加するなど、新たな試みで走り始めたばかりの事業である。これまでは話し合いの場を持つことを考えていなかったが、例えば市長車座ミーティングに申し込んでみるなどして、今後、行政と意見を交換する場が持てればよいと思う。

【主な意見】

- ・市からは、乳がん検診の無料クーポン券が送られ、巡回の検診も行われているが、受け手側が検診に行こうという気持ちに結びついていない。行政と受け手側である市民の隙間を埋めるような活動なので、行政とどんどんコラボして、啓発を進めていただきたい。
- ・町会連合会の保健衛生委員会で毎年行っている健康講座などで啓発活動を行えば、地域に広がっていくと思うので、そのような場を活用していただきたい。
- ・本来は、行政が積極的に行わなければいけない事業だと思うが、弘前の乳がん検診率がアップし、乳がんで亡くなる人がいなくなるように、発展していけばいいと思う。

【採択結果】

合計点 84.8点 ≥60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員10名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.2
合計		84.8

●20：岩木山エコプロジェクト／岩木山観光協会

【質疑応答（抜粋）】

Q：町会の一斉清掃で集めたごみは市で回収してくれるが、この事業に関して、市でごみ処分しないことについてどのように考えているか。

A：市からは感謝状をいただくが、それは違うと感じている。ごみを捨てる人が一番悪いが、行政任せにするとやらない。答えになっていないが、この事業を続けるために、行政（担当課）と協議はしている。

Q：この事業で抱えている課題は、ごみの処分料と、ごみをいかに捨てさせないかだと捉えられるが、これらの課題に対して、団体ではどのように考えているか。

A：現状は、申請補助金額の3分の2以上がごみの処分料だが、本当であれば啓発や周知のためのポスター等の製作費にもっと経費を割ければいいと考えている。今後は、企業にもごみに対して関心を持ってもらえる方向付けも必要になると思う。

【主な意見】

- ・現段階では、岩木山のごみを減らすためにあきらめずに活動している団体を、1%システムというかたちで支援していくしかないと思う。
- ・岩木山だけでなく、大きなイベント会場にごみを置いて帰っていたり、道路にごみが捨てられているのを見かける。ごみをいかに捨てさせないかという意識づけは、将来的に子どもの教育問題にも関連していく問題だと思う。

【採択結果】

合計点 86.4 点 \geq 60.0 点 ⇒採択

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	9.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.2
合計		86.4

● 6 : Nature ～今こそ自然に還るとき～/弘前学生BBS会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 子どもの自主性を育てるためにも、子どもの参加人数の割合を増やしたほうが良いように感じるが、この人数配分にした理由を教えてください。

A : コテージの収容人数が最大52人であるため、子ども30人、学生22人とした。子ども1人に対して、学生が大体1人つくことで、安心感や安全性を高めたいと考えている。

Q : 市内の小学生に平等にキャンプのPRをし、広く募集できるように、周知方法について工夫をしている点があれば教えてください。

A : 去年は、各小学校にキャンプのチラシを配るとともに、子どもを対象に行っているイベントに出向きキャンプの宣伝をした。また、新聞社の方に取材を依頼し、記事を掲載していただくなど、広く周知できるようにした。

Q：募集人数よりも多くの参加希望があった場合、どのように対応するのか。

A：参加者は先着順にし、もし参加できない子どもがいたら手紙でお詫びするようなかたちを取りたいと思う。参加希望が多い場合は、学生の人数を減らして、少しでも多くの子どもが参加できるようにしたい。

【主な意見】

- ・子どもの自主性を伸ばすことが目的であれば、子どもと学生の参加人数の割合や、キャンプの内容を再検討する必要があると思う。
- ・小学校によってチラシを配布するタイミングなども違うので、応募多数の場合は抽選にして、その旨をチラシに明記したり、配布するタイミングを一緒してもらえるようお願いするなど、参加希望者とのトラブルにならないように考慮していただきたい。
- ・事業の回数を重ねるごとに、自分たちで出来ることが増えていくと思うので、場数を踏むことで、保護者の信頼を得たり、協賛金を集めることができるような努力をしながら事業を継続していただきたい。

【採択結果】

合計点 59.4 点 < 60.0 点 ⇒不採択

※審査委員 10 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	5.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	5.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.2
合計		59.4

● 13：「組ねぷた制作技能継承事業—組ねぷたを見直そう—」／弘前組ねぷた参加団体協議会

【質疑応答（抜粋）】

特になし。

【主な意見】

- ・ 昨年は、思いがけない事故がねふた期間中に起こったために事業が実施できなくなったが、そこでやめるのではなく、今年また申請してきたことを高く評価したい。
- ・ 組ねふたが増加すると、製作期間が長くなるため、地域間の交流やコミュニティの場も増え、ねふた以外の場にもつながっていくと思う。

【採択結果】

合計点 84.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 9 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.0
合計		84.8

● 16 : ふるさと・相馬、戦後70年記念プロジェクト

／戦後70年記念プロジェクト実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 今回の事業は戦後70年記念ということだが、来年度以降の事業の見通しについて、どのように考えているか教えていただきたい。

A : 戦後70年をきっかけに、今後は体験的なものを取り入れながら事業を継続していきたいと思っている。同じく相馬川を使うイベントとしては、町会内で魚の養殖をしているところがあるので、魚のつかみ取りを実施するなど、地元のものを利用しながら継続していき、相馬の連帯感を強めていきたい。

Q : この事業を実施する上で、子どもたちが参加したくなるような工夫があれば教えていただきたい。

A : 灯籠流しの灯籠に子どもたちに絵や願い事、それが難しいようであれば自分の名前だけでも書いてもらおうと思っている。また、童謡・歌唱コンクールで子どもたちにも歌ってもらうことで、保護者の人も参加してくれるのではないかと考えている。

Q：読み聞かせの講師の選定方法と、内容について教えていただきたい。

A：地元の老人クラブの方に講師をお願いしようと考えている。老人クラブの人たちは昔語りなどに慣れた人が多いので、80代や90代の人から自分たちの若いころの話をしてもらい、司会を交えながら語り聞かせたいと思っている。

【主な意見】

- ・相馬地区では、ほかにもさまざまな事業が行われているので、何かの事業と連携できる場所は連携していただきたい。
- ・長慶天皇御陵墓参考地など歴史ある場所を会場にすることで、地域の学びのきっかけにもつながる可能性もあり、とても良い事業だと思う。
- ・地域の方たちが集まり、交流することによって生まれてくるものがたくさん出てくるように、1%システムをどんどん活用していただきたい。

【採択結果】

合計点 80.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 8 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.3
合計		80.8

● 19：国吉町会山岸堰改良事業／国吉町会

【質疑応答（抜粋）】

特になし。

【主な意見】

- ・地域住民が自ら汗をかき、地域の環境整備をする先駆けの事業なので、今後ほかの地域

- で自分たちもこうしてみたいということがあれば、参考にしてもらいたい事業である。
- ・最後まで自分たちで工事したという誇りがあると思うので、丁寧に使って、傾斜の急なところの法面や、春の雪解けで水量が多いときの管理などをしっかり行っていただきたい。
 - ・5年かけて自分たちで完成までたどりつくということは立派だと思う。最後の詰めまで事故のないようにきちんと行っていただきたい。

【採択結果】

合計点 89.0 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 8 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	9.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	9.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	9.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.3
合計		89.0

● 18：第13回ホームムービーの日／HMD弘前

【質疑応答（抜粋）】

Q：来年度以降補助金を要望しないということだが、次年度以降はどのように事業を実施する予定か教えていただきたい。

A：補助金を活用してプレイベントなどを行ったことで、新たに参加してくれた人の増加や事業の拡大につなげることができた。事業の規模自体は、補助金を活用する前に戻るかもしれないが、新たな参加者を離さないようにしながら、今後も継続していきたい。

Q：今年の新たな試みである、町会へ出向いての巡回上映会について、周知方法についてどのように考えているか。

A：毎月1回、町会連合会の理事会が開かれているという話を聞いたので、そのような場に出向いて上映会についてPRできればと考えている。

【主な意見】

- ・昔の映像は、ふるさとのことをもう一度考えるための弘前市にとって財産になりうるものなので、8mmなどの映像を保管しておくことが大切であると認識する人を増やすためにも、地域に出向いていくような活動を継続していただきたい。
- ・地域に出向いて昔の映像の大切さを伝えることは、話を聞いた人から映像や写真などが提供されるなど、掘り起こしの役割もあると思う。
- ・さまざまなイベントにアプローチをかけたり、町会を巡回したりと、上映会の場を多く作ろうとしているのが素晴らしいと思う。昔の写真や映像を、ずっと住んでいる人が懐かしいと思うだけでなく、昔の風景を知らない学生が見ていくことも面白いと思うので、学生にもどんどんお周知していただきたい。

【採択結果】

合計点 83.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 9 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.9
合計		83.8

● 15 : 弘前駅前遊歩道賑わい祭 JAZZ DAY 収穫祭

／弘前駅前遊歩道賑わい祭実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : イベントがないときに駅前が賑わうためにも、このイベントを今後どのようにしていきたいと考えているか教えていただきたい。

A : 駅前地区には、車を持たない方や、高齢の方が住んでいるので、10年後に60代後半から70代になっている人たちが賑わいをもって暮らせるような地域を作っていきたいと考えているので、祭り自体も10年は続けていきたいと思う。

【主な意見】

- ・地域の賑わい創出のために、実行委員会を立ち上げて事業を行うことは大変だと思うし、すごいことだと思う。また、10年先のまちを考えて、地元のジャズバンドや弘大のジャズサークルなど地域を生かした出演者の選定をしており、今後の発展性も期待できる。
- ・このイベントを継続していき、駅前地区に常に人がいるような環境を作ることで、治安の向上につながることを期待できる。
- ・今回はジャズがメインだが、これを足掛かりに様々なジャンルのイベントになり、発表する場がほしい団体にとっての発表できる場にもなりそうなので、応援したい。
- ・駅前地区には高齢の方も多く住んでいるので、住民が安心して生活できるような雰囲気を作り出し、住民同士のつながりや、近隣の地域との連携につなげていただきたい。

【採択結果】

合計点 88.2 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員9名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.9
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	9.1
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	9.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.1
合 計		88.2

6月21日審査結果（20事業のうち8事業）

採択とする事業 7事業
不採択とする事業 1事業

2次募集事業の審査結果（20事業）6月19日～21日審査合計

採択とする事業 17事業
不採択とする事業 3事業